

前回、「言語」のプログラムの「話しことば」と「書きことば」について紹介しました。言語の敏感期にいる幼児は、話しことばを聞き、話せるようになると、文字についても自然に興味を示すようになります。子どもたちは、人間社会の言語環境の中で生活するうちに、自然に母国語を習得してきたように、文字についても生活の中でかなりの部分を習得していきます。

モンテッソーリ教育では、この時期にタイミングよく確かな指導がなされています。それは、決して小学校への準備という狭い意味でなく、人間として豊かに生きていくための1つの手段として、当然身につけなければならない能力への援助として、広義にとらえることが大切です。

<書くための手の準備>

モンテッソーリ教育では、直接導入する（紙と鉛筆で文字を書くこと）前に必ず長い時間をかけて間接的に準備がなされています。

その準備とは…?

- ☆日常生活の練習
  - ・より分け、つまみつきパズル、玉通し
  - ・コイン落としの中でつまむ動作・・・鉛筆をしっかりと持つための3本の指の準備になります。



- ・お盆を使っでの持ち運びは、腕の力をつけます。様々な練習を通して目と手の協調性を身につけ、自分の意のままに動く手を準備すると同時に、注意力や集中力といった精神面も備わっていきます。



感覚教具

- ・はめ込み円柱、ピンクタワーの最少ブロック、色付き円柱のつまむ動作は鉛筆をしっかりと持つための3本の指の準備。
- ・はめ込み円柱を穴に戻す動作は、鉛筆を持って書く時に必要な、筆圧のコントロールの準備になります。

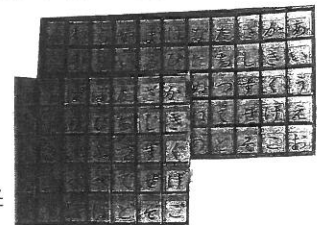


- ・雑音筒を軽く振る動きは、手首の柔軟性の準備。
- これらの間接的な長いながい準備を経た子どもたちは、読むことよりも書くことを早く始めます。

「書くこと」

- ①書く道具（筆記用具）の操作（鉄製のはめ込み（メタルイン））
- ②形（文字）の再現（砂文字、彫文字、壁文字、50音積木（平仮名、カタカナ）、かなくら（初級・上級）文字かき）といった2種類の運動が行われています。

今回は②の教具を紹介したいと思います。



☆教具紹介☆

「かなくら（初級）」（年齢） 4歳半～5歳半

- 教材一
  - ・大きい箱（清音文字が五十音通りに枠内に納まっている）各文字 10枚
  - ・小さい箱（濁音、半濁音と小さい文字（あ、い、う、え、お、っ）が枠内に納まっている）各文字 5枚

方法一じゅうたんに一箱ずつ運ぶ

- (1)50音積木とのちがいを伝える。  
文字がたくさん入っていること、裏はカタカナになっていること
- (2)小さい箱の紹介  
濁音、半濁音、小さい文字は初めて使用するので一緒に読む。
- (3)行なっている子どもの名前や色の名前などをかなくらで書いていく。

子どもは楽しくて他にも友だちの名前を書いたり、絵のカードを見て名前を書いたりとどんどん行なっていきます。

上級かなくらには拗音（きゃ、きゅ、きょ…ぴゃ、ぴゅ、ぴょ…など）の箱もあり、拗音（ちゃわん、きしゃ、かぼちゃなど）の言葉も書くことができます。他にも促音、長音、撥音、拗長音など様々な言葉を意味する絵カードも入っているので自分でカードを見てどんどん文字を書いていけます。

